

断然自然が好き。淀川の河川敷散策 という楽しみを見つけました

大阪(ゆうゆうの里)

上田尚子様(76歳) 平成30年7月 一人入居

「虫姫」はかけっこも速い

長女、次女、私、妹、弟の5人姉弟。自然が豊かな場所です。育ちました。子供時代にはセミや虫なら何でも捕まえていたので「虫姫」と呼ばれていたことがあります。

弟と私はかけっこが速くりレーの選手として運動会で活躍しました。私が中学三年生になって、母が亡くなり、父は男手一つで子供たちを育てました。二人の姉は母親代わりです。家族の仲は良く、お正月には一緒に百人一首に明け暮れ、七夕には、父が竹藪に笹を取りに



ことが出来ました。クラブの作品展や先生の所属する京都の作品展にも年

行き、皆が願い事を書いた短冊を飾りました。母が亡くなった後も、姉が中心になって、端午の節句に手作りのお菓子を作ってお祝いをしていました。今でも、姉は自宅です。頂いたお餅を送って来ます。

書道と仕事の両立

私は中学・高校の美術部に所属し、水彩画を習っていました。絵が好きで大学の美術科を受験しましたが失敗。母が生前にこれからは手に職をつけなさいと言っていたことを思い出し、医療系の専門学校に進学しました。岡山の病院に10年勤務した後、友人が住む大阪に出て来て、大きな病院に就職することができました。その病院はクラブ活動が充実していて、私は友人に誘われ初めて書道を習うことになりました。レッスンは終わると私が書道の先生を自宅まで送って行くことになっており、幸運にも最後まで時間を使って先生の手ほどきを受ける

に一回出展。そのうち全国大会の展覧会にも出展するようになりました。作品制作に追われ気がつくことが多くなりました。夢中で制作したおかげで、多くの賞を受賞出来ました。

姉妹に迷惑をかけたくないから

私の友人は独身が多かったので、一緒に将来の話をしていると、自然と老後に関心を持つようになりました。母の妹でいつも母の代わりに私たち姉妹に服を作ってくれた親戚な叔母が、神戸へゆうゆうの里へ入居していたことも参考になりました。歳を重ねてから姉妹に迷惑をかけたくないとの思いから有料老人ホーム入居を前提にしました。京阪沿線に住んでいたこと、仏像・絵画の展覧会や書道用品の購入のために、京阪を利用して京都に通ったことから、守口にある大阪(ゆうゆうの里)を選びました。入居前と後で、生活環境にはあまり変化はありません。

以前と変わらず、姉は自宅の畑で採れた新鮮なお野菜を送ってくれます。入居者の皆様にお裾分けしたり、得意な料理にして振る舞ったりして、交流を深めています。

河川敷に自然を見つけ、短歌に親しむ

こちらに入居して、淀川の河川敷散策という楽しみを見つけました。私は根っから自然が好きで、病院時代は「山ガール」でもあり、山岳部の友人と大山や谷川岳にも登りました。とにかく、お休みの度に登りました。翌日が勤務でもそのまま仕事に向かうほど好きでした。だから歩くのは全く苦になりません。季節の自然をいち早く発見するのも得意です。四つ葉のクローバーはもちろん、五つ葉や六つ葉もすぐ見つけます。春先のつくしは、摘んで来て炊いて入居者の方にお分けします。草花もいろいろあり飽きません。秋には、ねじばな、背高泡立草、彼岸花など。水鳥も釣り人もこの風景です。実は姉の手ほどきで短歌を始め、一年になります。姉に10首の作品を送るとお野菜と一緒に添削が帰って来ます。

「炎天下 河川敷には 我ひとり マスク外して 歌いつつ行く」コロナにも負けません!



秋空の淀川河川敷を歩く上田様